

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.14

【新しい日常を生きる① ～ウイルスと共に～】

この原稿を書いている（6/23）、コロナ感染は国内外で決して減速とはいえない状態ですが、日本国内においてだされた様々な要請や自粛といったものはすべて解除されました。少し前に県をまたいだ移動自粛が解禁になったことで、これまで帰省できずにいた方々が早速移動を開始されたようです。また、飲食業やサービス業も長い休業を余儀なくされていましたが再開にこぎつけたところが多くあります。

テレビのニュースでは、日常を取り戻した人々の歓喜にわく姿が報道されましたが、ウイルスはまだ消失したわけではなく国内外のあちこちに潜んでいるということ、忘れてはなりません。感染者の数が落ち着いたことで医療崩壊を防ぐことができたために、政府が、日常を取り戻し経済を回すための決断をしましたが、ウイルスがまた再流行すれば感染者の数が増える「第二波」がやってくるのです。現在、研究者たちが懸命にこの新型コロナウイルスに打ち勝つためのワクチンや治療薬の開発を急いでいます。

浅草のスーパー薬剤師みやちゃんは、コロナウイルスが猛威をふるうとただちに連日、薬局前にたち地域住民への注意喚起に尽力しました。その時の思いの一部を紹介させていただきます。

*****2020年05月08日 宮原富士子FB *****

【コロナ禍は、いろんな人の考え方を如実に露見させたという画期的な出来事でもあったかと思います】

政治家や専門家のありかたも考えさせられました。AIに集約して分析してみると、次の選挙の時や学会のあり方とかにも影響が出てくるかもしれません。専門とはな

にかも考えさせられましたし、生活への介入の権限やあり方も考えさせられました。

薬局的にはあまり必要が無い治療やどっちでもいいけど通ってた通院は激減したでしょうし、病院志向から一気にかかりつけ医師を持つことの大事さを感じた人も多くおられたでしょう。そしてかかりつけ薬剤師の意義も。

私は、かかりつけ薬剤師がいかにか生活人であるかを痛感する毎日です。人の支援のあり方は、例えばケアマネジャー（介護支援専門員）の今回の役割においてもとても頼られていて、中心的に人的マネジャーをしつつ寄り添っている人とまったく無関係な位置だったことが露見した人（当人は気づいていない場合が多いですが）にきっぱりわかれしました。ヘルパーさんや訪問看護師との連携もうまくいったところと何もできなかったことの両極端でした。日ごろの努力はこういう時のためなんだなあと痛感します。……………。

これからは、ウイルスがいることを前提にして生活をしなければならない……。巷では、「withコロナ」「コロナの時代」などという言葉が使われていますが、新型コロナウイルスがもし消えたとしても、人類誕生以前に存在し世界のあちこちに潜んでいる新たなウイルスが私達の前に現れ、今回のような人類VSウイルスを展開する可能性があるのです。

では、どうしたらいいかという、ウイルスを受け入れ共に生きる覚悟をするしかないのです。これは、決して地域限定ではなく世界共通のキーワードです。


でもこの問題は、難しい注文ではありません。地震国日本に生まれ暮らしているならば、地震の恐ろしさを体験していますし、経験していないならば親や先祖から聞いて自然と共に生きる覚悟をする必要があります。戦後最大規模といわれた2011年の3・11の後、私たちは改めて学んだことを思い出してください。震災後、人々の防災意識が高まり、どこに住めばいいか、地震がおきたらどう行動すべきかなど確認しあったのではないのでしょうか。日本は過去、幾度も大規模な地震がおき、おびただしい数の生命が失われたのに、事がおさまればすぐに忘れてしまうという過ちをおかしてしまいます。

ウイルスとの闘いも地震などの自然災害との闘いも2人に一人が罹患するがんとの闘いも同じです。忘れずに、問い続け、次世代に語り続けることが大事なのだと改めて思います。

ウイルスと共存するために「新しい日常」「ニューノーマル」という言葉も使われています。新しい時代をいきるための「新しい生活様式」は、密集・密接・密閉の「3密」をさけることを基本とし、○身体的距離の確保、○マスク着用、○手洗い・うがいの実践があげられています。

「身体的距離の確保」については、私の感想としては、まだ完璧とはいえないようです。スーパーに買い物にいくと、並ぶべき所にマークがついているのですが何故か（目には見えないのか）詰めようとする傾向があるようです。心配になり、ちらりと警告すると怪訝そうな顔をされヒヤリとしたものです。そういう私も習慣的に早足で歩いていると前を歩いている人たちにおいつき、距離を縮めていることに気づきハッとしたものです。

これからは、下着をみにつけるように「マスク着用」が基本となるのでしょうか。そのうち、デパートや百貨店にはマスクコーナーが設置されるようになりカラフルでオシャレな商品が出そろったり、マスクデザイナーという職業も出てきたりするのではないのでしょうか。器用な方たちは既に、自身で



工夫してマスク作りを楽しんでおられるようです。これから暑さにむかい、口元をおおうマスクを着用することで熱中症などの症状がでることが危惧されますが、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的にはずして休憩するなどの対策をとっていくことも必要です。

「手洗い・うがいの実践」は、基本にもどってしっかり行って欲しいです。ラブラブの方々には面白くないかもしれませんが、一日幾度もかわす(?) 親愛のチュー! も(特に) 外出先から戻った時や体調がすぐれない日は控えたほうが賢明です。

親しい女性たち数人に聞いたところ、同居する夫や恋人のこれまでの生活行動は、外出から戻ってもすぐに手洗いをしようとしなければか、飲んで帰宅すると顔も洗わずお風呂にも入らずに眠ってしまうが多かったそうです。また、買い物などの家事を手伝ってくれるのはよしとして、手も洗わずに冷蔵庫を触るので心配だったという声があがっています。考えただけで不潔ですよ。

これからは、ウイルスがいることを前提に生活することが必要ですから、うがい・手洗いに加え、顔や身体を清潔に保つことを心がけましょう。生活様式の変容が求められているのですから、生活のあらゆるシーンの見直しが必要なのは言うまでもありません。次回はもう少し掘り下げて考えたいと思います。

